

苟日新 まことひあらに  
日日新 ひびあらに  
又日新 またひあらに  
又日に新たに  
出典「大学」



「ゆめ・にっしん」は、平成 18 年 2 月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行： まちづくり日新 広報部会  
福井市文京 5 丁目 1-8 日新公民館  
発行日：令和 7 年（2025 年）9 月 11 日

## 地球沸騰化時代の到来？

今年の 6 月から記録的な暑い日が続いています。

先日気象庁から 2025 年 6 月の日本の平均気温の基準値からの偏差は +2.34°C で、これまでの記録であった 2020 年の +1.43°C を上回り、統計を開始した 1898 年以降の 6 月として最も高くなったとの発表がありました。日本での 6 月の気温上昇は大変な危機です。例年なら梅雨時期で雨により然程（さほど）気温が上がりません。今年は雨も降らず、6 月 21 日が二十四節気の「夏至」であり、太陽が 1 年で最も高い位置まで昇り、昼の長さが最も長くなる日です。すなわち熱い時間が長く続くという事で相乗効果を引き起こしました。

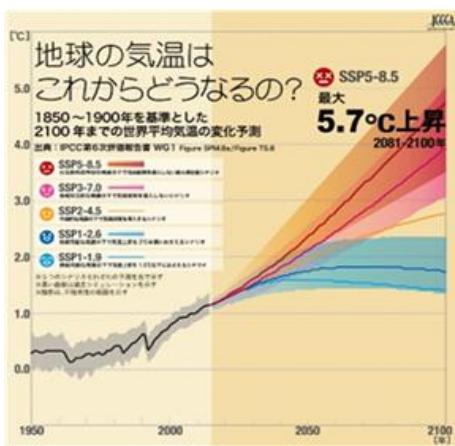
また、7 月は世界のあちこちで最高気温 40 度をこえる地域が出ています。日本でも梅雨もなく涼しいはずの北海道で 40 度に迫る日が記録されました。7 月の日本の平均気温は（2020 年までの 30 年間平均）より 2.89 度高く、統計を始めた 1898 年以降で最も高かったと気象庁が発表しました。そして、8 月に入るとさらに日本各地でその土地における最高気温を記録しています。また、線状降水帯が発生して各地で集中豪雨が予測されます。

その要因は色々あるでしょうが、温室効果ガスによるところは大きいでしょう。本当に「温暖化をいかに抑えることができるか、温室効果ガスの排出を抑えるか」を真剣に考えなければいけないようです。確かにこのことを考えるとき誰もが経済は？と疑問視するでしょう。

しかし既に 30 年前の 2006 年にアメリカ副大統領ゴアによって作られたドキュメンタリー映画「不都合な真実」で危機を知らされていました。また、2018 年に当時 15 歳のスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが地球環境問題に大人が無関心なことに憤り、スウェーデンの国会議事堂前で抗議活動を始めました。他の学生たちも彼女に触発されて抗議活動を始め、「未来のための金曜日」の名で気候変動対策を求める学校ストライキが始まりました。そして、この運動は、世界に広がってきました。2019 年、国際連合事務総長のアントニオ・グテレスさんは、「私の世代は気候変動の劇的な課題に適切に対応できていない。若い人たちが深く感じている。彼らが怒っているのもふしぎではありません」と認めました。

しかし、最近のアメリカ大統領トランプ氏は地球温暖化は二酸化炭素の発生により起こっているという事に背を向け、「ここ掘れ掘れワンワン」と石油を掘っています。将来の地球を考えなければ、自分の国も含めて、人類の危機が迫っているというのに…………

日新地区で心配なのはミソハギ？？



## 上がり始めた気温

IPCC の第 6 次評価報告書（2021）によると、世界平均気温は工業化前と比べて、2011～2020 で 1.09°C 上昇し、陸域では海面付近よりも 1.4～1.7 倍の速度で気温が上昇、北極圏では世界平均の約 2 倍の速度で気温が上昇するとなっています。

特に最近 30 年の各 10 年間の世界平均気温は、1850 年以降のどの 10 年間よりも高温となっています。中でも 1998 年は世界平均気温が最も高かった年でした。2013 年には 2 番目に高かった年を記録しています。

今後、温室効果ガス濃度がさらに上昇し続けると、今後気温はさらに上昇すると予測されています。（IPPC とは「気候温暖化に関する政府間パネル」）

## 8月23日（土）午後から 底喰川のミソハギ花まつり



今年は例年とは大きく異なり、少しは暑さをしのげるかとの思いで、お盆過ぎの23日（処暑）にミソハギ花まつりが行われました。しかし、温暖化で熱くなった地球は許してくれず気温は36°C。ミソハギも人間も本当に心配です。

実行委員会の皆さん、一週間前には底喰川の両岸に数十本の幟を立て、昨年と同様にまつり当日の午後からテント張り・参加賞等の商品の搬入をし、準備万端です。

いよいよ、まつりが午後3時を開催されました。暑さにも負けず次々と受付に並び始めました。受付後はミソハギ観賞ウォーク約100mを歩きながらのクイズ、その後無料配布のかき氷で暑さをしのぎ、スリッパ飛ばしを楽しみ、館内でいきいきライフセミナーのみなさんによる「日ちゃん新君の底喰川たんけん」の紙芝居、絵画・書・川柳などの応募作品を鑑賞、屋外でキッチンカー販売の焼き鳥・飲み物などでおなかを満たし、大賑わいでした。参加者はおよそ180人でした。



準備中



氷柱もあるよ



暑い中での火はなお熱い



受付始まるよ♥



パラソルはいかが？



こっち・こっちですよ



クイズを考えよう



ミソハギのこと学んでね



暑い。お客さん早く！



うまく当ててね



デジタル紙芝居ですよ



息もピッタリのアテレコ



ドローン撮影も挿入



「ミソハギと私」の作品展



キッチンカーも大繁盛



暑い夏に、最も込み合ったのはかき氷（氷スライサーも回るが目が回る）



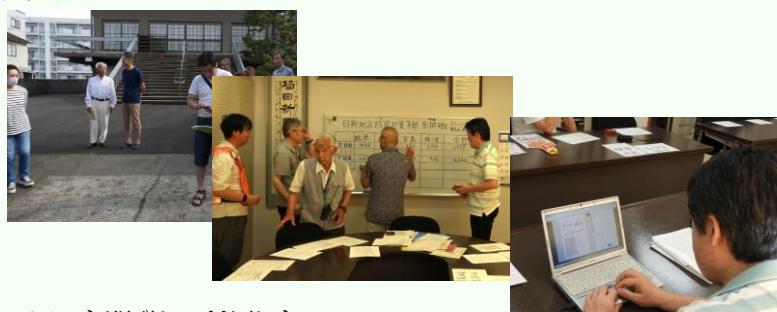
今年も 無事に終わりました お疲れ様でした  
来年もまたこんなに暑いのかな～涼しく運営する方法を考えよう……

## 福井で初めての安否確認システムを日新で開発導入する

6月22日(日)の朝8:00 福井市内にサイレンが鳴り響きました。福井県嶺北北部沖を震源とする地震が発生し、福井市内では最大震度7を観測、沿岸地区については大津波警報が発表されたことを想定しての防災訓練が行われた。

訓練内容は

- ① サイレンと同時に身を守る行動
- ② 非常持ち出し品を持って、一次避難場所へ避難
- ③ 自治会長の点呼や安否確認
- ④ 指定避難場所(二次避難場所)へ避難
- ⑤ 消火訓練や救出・救護訓練



今回、日新地区では ③ の訓練を「日新安否確認システム」を開発し、利用した。

SNS や社内チャットでの安否確認は、メールや電話を使うよりも迅速にみんなの安否を確認できるメリットがある。今回は通常 2 時間かかるところを 40 分ほどで完了。しかし、災害によってインターネットが切断されたり、サーバーの混雑によって通信ができなかった時には、SNS にアクセスができず安否確認ができないリスクがある。



## 久しぶりの乾徳夏まつり

7月20日(日)に乾徳地区の自治会長・乾徳ふれあい会・地区的有志らで実行委員会を立ち上げ久しぶりに乾徳夏まつりが開催された。子供たちが遊べるスマートボールなどのゲーム、大人が楽しめる飲み物、焼き鳥などのキッチンカーのお店が乾公園内に用意された。暑い日にもかかわらず、地区の方・夏休みで帰省されている人達が久しぶりに顔を合わせ談笑されていた。

ステージでは、オープニングの午後3時から福井の伝統工芸品を応援するアイドルグループ「さくらんど」のライブで軽快な?司会で始まり、数十人の「さくらんど」のファンがカメラを構えてステージ周りを陣取っていた。約3百人がカラオケ大会やbingoゲーム、などで午後8時までのおよそ5時間暑い夏の1日を楽しんだ。



## 第3次本格査定承認され続行 (さんさんバス)

8月26日16:58に交通部会長の山口満氏から「今、役所から電話で本格査定が承認された」と嬉しそうな声での電話があった。彼は「一度無くなると二度と復活できなくなる、高齢化社会の今だからこそ高齢者の足として必要、お年寄りの井戸端会議の場になり認知症防止にもつながる」とコミュニティバス必要論の旗を振った。この声に共鳴した日新の皆さんのコミュニティバスを残したい思いが通じたのである。一安心!!



## !今年の講演会決定!

演題：「心の豊かさとファッション」

講師：松原弘恵氏（福井文化服装学院学校長）

主催：まちづくり日新広報部会　日新婦人会

日時：11月29日（土）午後1:15開演

場所：日新公民館大会議室

新聞での1年間の出筆連載

『今日の朝カジ』(朝日新聞)平成21年

『暮らしのファッション』

（日刊県民福井）平成27年



熱中症アラートが今日も出ている。地球の気候は完全に変わってしまったのか？沖縄が北海道より涼しいなんてありえないことだ。福井には梅雨もなく台風もまだ来ていない。一日中熱く夜も30°Cに近い。アフリカなどの熱帯地方の国ではこれでは働くのも嫌になるだろう。暑い話では米価は確かに高い。もっと早く政治的対処できなかつたのか？これも戻れない事だろうか？自分の周りを知るべしと、田に出てびっくりイナゴが多量に飛び立つ。

畑においてはカヘムシが木々に、アメリカシロヒトリが落葉広葉樹に多発し葉を食べ枯れ木状になる。チャドクガやイラガは早々と繭になつてしまう。蟬時雨は全く聞こえず「暑い暑い」と人声を聞くばかり、こんな世界はもう嫌だ。ミソハギの祭りは明日であるが無事に終えれそうである。雨なし高温続きで苦労したが、花は7月初めに開花、8月上旬満開となつた。新聞にも良い状態で載せてもらえて満足だ。来年に向けて頑張っていくのみとなつた。



アメリカシロヒトリ

チャドクガ

イラガ

地域住民の皆さん極めて厳しい暑さが続いておる昨今いかがお過ごしでしょうか。我々の取り巻く生活環境も大変な状況に至っており、物価高に令和の米騒動と特に温暖化による異常気象（観測史上群馬県伊勢崎市で41.8°C）線状降水帯の発生にて警報級の大雨など予測がつかない明日が見えないと混迷化する。日本列島も大変なる時代を迎えようとしております（政治、経済、少子高齢化）……まちづくり交通部会が誕生以来、今では組織も平成22年4月より15年を迎えようとしており、この令和7年の9月が第3次本格運行コミュニティバス事業の実績査定となつており、私達組織一同は只々ひたすら事業目標（行政よりの指達値）達成の為に非常に苦しい厳しい対応を余儀なくされました。特に新型コロナの2020年3月以降については予想だにしない最悪の実績経過に有りました。その期間中（1.5年間）にあっては役所の係員、業者（京福）と交通部会の役員（5～6名）と併せて約10名前後にて毎月次促進的計画を前提に、その戦術、戦略の企画内容を含めて約1年間に亘り作戦検討会議の実施を促し、その成果の結果に対し昨年（令和6年7月～令和7年の8月度）実績に到るまでの14カ月間連続にて割り当て基準値の100%以上の達成に至った（令和7年7月度の651名は2020年コロナ以降新記録129.2%）

令和7年8月26日PM3:30市役所の田崎係長より携帯電話がかかってきた。その内容は「本格運行の査定期間中の実績結果は指達基準に対し未達なれどこの1年間業績が100%以上の達成により第3次本格運行の査定を継続承認と致します」との連絡があつた。長年の組織、スタッフ、バス愛好者の苦しい想いや事業対応に対して良き結果として報われる結果に対して、まずは皆さん方にお礼を申し上げたい。ありがとうございました。



まだまだ少子高齢化時代もその内容は高まります。団塊のジュニア世代が後期高齢に到つた時が今後高齢者の最高実績（10年後ぐらい）到るそうですが、これからも私達まちづくり交通部会、サポーター一同日々の高齢者の活動内容に対し尚一層の後押しを心掛けたいと思います。今後とも宜しくお願ひいたします。（まずは本格運行の査定認可のおしらせまで）

昨年、一昨年の9月に発行した「ゆめにっしん」を読み返してみた。いずれも「観測史上最も暑い夏です」と書いている。今後「今年は気温30度前後の夏でした」と書ける日がいつくるのやら………

今年のミソハギ花まつりは例年の8月初旬から猛暑を避けて8月23日へ変更した。

暦の上では「処暑」、暑い夏も終わり涼しくなり虫の音が聞こえてくるころである。早朝、確かにコオロギ

や鈴虫の音が聞こえてくるが、環境部会長の言葉通り「アツい、アツい」と家の中でかみさんが叫んでいる。

いつまでも続くこの暑さ……。続いているものと言えば、この「ゆめにっしん」（年4回）に環境部会長の高橋さん、交通部会長の山口さんに毎回原稿をお願いしている。発行時に間に合わなかつたことは一度もない。編集者として頭が下がる思いである。本当にありがたい！「ありがとうございます。」

